スモン調査研究協議会研究報告書

No.4

昭和45年度病理班研究報告

昭和46年3月

スモン調査研究協議会

目　　次

序 …… 1

スモン剖検例の全国調査報告
アンケート回答のまとめ …… 江頭靖之ほか …… 3

岡山地方のSMON剖検例 …… 小川勝士ほか …… 18

SMONの病理組織学的研究 …… 小宅　洋 …… 49

NEUROPATHOLOGY OF SUBACUTE MYELO-OPTI O-NEUROPATHA, "SMON" …… HIROTSUGU SHIRAKIほか …… 59

SMON対照例に於ける背髄，末梢神経病変について …… 太田邦夫ほか …… 87

SMONの腓腹神経の電子顕微鏡的研究 …… 松山春郎ほか …… 103

SMON患者の脱髄抗体の検索 …… 米沢　猛 …… 115

SMONの神経病変の類似性と特異性について，特にメチル水銀中毒のそれについて …… 武内忠男ほか …… 118

SMONの腸病変について …… 武内忠男 …… 127

スモン剖検例の腸組織標本検索の問題点 …… 渡辺豊輔 …… 139

SMON患者血清のマススペクトログラフによる微量成分元素の分析 …… 河合　忠ほか …… 153

SMON患者の末梢血リンパ球に対するキノホルムの影響について …… 河合　忠ほか …… 163

SMON剖検材料より病原体検出の試み …… 青山友三ほか …… 170

スモンの病因に関する実験的研究 …… 妹尾左知丸ほか …… 174

モルモットについてのキノホルム経口投与実験 …… 江頭靖之 …… 187

4種の農業用殺虫剤を2カ月間投与したハムスターに対する殺虫剤＋キノホルムの1カ月間経口投与実験 …… 江頭靖之 …… 190

キノホルム投与による障害性に関する実験病理学的研究
その増強因子としての農薬障害性の検討 …… 斎藤　守 …… 192

会議開催状況及び会員名簿 …… 195

序

昭和４５年１１月スモン調査研究協議会研究報告書第１集を発刊してから約半ケ年，臨床，病原，病理の各班の研究報告書を相次いで刊行するに至つたことは，会の世話役として大変喜ばしいことである。

さて昭和４５年度は「スモンの病因と治療に関する特別研究」に対し，厚生科学特別研究費5,０００万円が認められ，引続きその研究が調査研究協議会に委託された。

調査研究協議会の研究方針は，原因不明疾患の研究の常道によつてmulti-disciplinary の原則に従い，可能な限り，また考え得る限り各方面から，それぞれの専門家の手によつて，アプローチを試みたわけである。

従つて研究班員の数も，昭和４４年度の分に対し，２３名が新たに追加され，総計６４名となつた。

これら研究班員各位の問題解決に対する熱意と努力の結果として，スモンの病因究明に対する多くの有力な手掛りが，昭和４５年度の研究から生れてきた。この網にかかつた最も大きな魚はキノホルムであるといえよう。とくに，調査研究協議会の研究成果に基いて，昭和４５年９月８日キノホルム発売中止の処置が，政府によつて行われてからスモン患者の発生が激減をみたことは特筆しなくてはならない。

もとより現時点においてはキノホルムを原因と断定するのは時期尚早ではあるが、スモン発症に対する影響はもはや何人も否定できないと思われる。しかしなおウイルス，マイコプラズマ，腸内細菌などの微生物因子や農薬の影響などにも考慮を払いつつ研究を推進しなくてはならない。

病因研究の華々しさに対比して，治療研究の成果が少ないのは遺憾であるが，事の性質上止むを得ない面がある。しかし，少しづつではあるが，地道な努力が治療やレハビリテーションの改善に払われ，成果が現われつつある。

ここに昭和４４年９月２日スモン調査研究協議会発足以来，昭和４５年度までの臨床，病原，病理研究成果のあゆみを今回の第２，３，４集にまとめ世に送る次第である。

昭和４６年３月

スモン調査研究協議会

会長　甲　野　礼　作